

つくばを知り尽くす地域活性の請負人 市民参加型の新たなまちづくりの姿

株式会社ツクバ・インフォメーション・ラボ代表取締役を務め、地域活性を見据え、様々なイベントを展開する佐山剛勇氏。「成功するまで続けるから失敗はない」と研究学園都市つくばの未来を背負い、まちづくりのコトをこし続ける成功請負人を紹介する。

分断された街に
つながり呼び込む

私が34年前に移り住んだ頃は桜村でした。まだつくば市ではなく、5町1村の合併の前でした。この地域は、1960年代に閣議決定を受けて、研究学園都市の開発が進んでいました。しかし、この地域は、とても奇妙に映る街でした。塀に囲まれた研究所と、その周囲にある畑と田んぼのエリアが全く隔離されていました。同じ地域にありながら、それ

らをつなぐコミュニケーションが全然感じられませんでした。

当時、つくばのまちづくりをインフラ的に先導していたのは公団です。今で言うUR都市機構ですね。当時、住民の意見や参加なしに行政主導のまちづくりが展開されていたのです。その結果、転勤などで新しく住み始めた人を新住民、昔からつくばに住んでいた人を旧住民と呼び分けられていました。両者間の溝は深く、顔をあわせても挨拶すら交わさない殺伐とした街が出来上がっていたのです。

この状況を打破するために、仲間と共に1981年4月の最終土、日曜日に「まつりTsukuba」を実施しました。今みたいにFacebookどころか、インターネットもなかった時代です。どのように新住民と旧住民に接点を持たせるのか考えました。そこで、まつり



のサイン製作を担当しました。万博が開かれている半年間に、利用者に聞き取り調査を行い、使いやすいデザインを考察していきました。たとえば、デザイン性の優れたスタイリッシュな表示でも、情報が正しく伝わらなかつたり、使いやすくなければ意味がないというユニバーサルデザインの基本概念を学ぶことになりました。

その頃を境に、町並みが一気に整備されていきました。周辺にデザイン専門の制作会社が他になかったので、仕事も徐々に増えていきました。研究所と農業、それに少しばかりの地元商工業。企業誘致が進まなければ産業も生まれません。私たちは、定住促進や誘致誘客をテーマとした活動から始めなければなりませんでした。街の魅力を発信し、クライアントとなる

会場近くのペDESTリアンデッキ(歩行者専用道路)沿いに、出身地別に分けた県人会ノートをおきました。そこに趣味などプロフィール、連絡先まで書いてもらい、人々の出会いの場を作りました。

会社設立に
町おこしでクライアント作り

まつりの開催などで培ったノウハウを熟成させるため、つくばの情報拠点となる株式会社ツクバ・インフォメーション・ラボを1981年に設立しました。しかし、当面売り上げはありません。クライアントどころか、周囲に人がいませんでした。それでは仕事になりません。生活が成り立たないので、当時の仲間3人は、それぞれ専門とする原稿を書いたりして、やりくりをしていました。

転機は1985年のつくば科学万博です。名だたる大手企業から万博に出展するため、つくばを案内してほしいという依頼がやってきました。その打ち合わせに事務所に伺いたいという申し出がありました。6畳一間のアパートに呼ぶわけにはいきません。適当な理由をつけて、近くのファミレスなどで打ち合わせを重ねていきました。

実際の万博では、JETRO(日本貿易振興機構)からの依頼で政府館合の醜い火花の嵐でしょう。街も同じです。快適なマンションで値段も手頃、しかも駅から近いのに販売が行き詰まる。自社物件だけをPRしがちですが、マンションは何故必要なのか。ある日ぶらっと来たつくばに魅力を感じ、いつかはこの街に住みたいと思つた、つくばで仕事をしたい、子供をつくばで学ばせたいなどの理由があるから、つくばに住まいを見つけたわけです。陽当たりや間取りを言う前に、街の魅力発信作業を協同でやれば、情報が広く遠くに届き、注目の確率が高まります。その結果、土地やマンションを

求める人ができるわけです。「来る」と「寄る」を混同し、まちづくりを進めている地域がまだまだ多くあります。しかし、地域への来訪者数が増加し続けていけば、来店者数も増

■さやま たけお プロフィール

略歴	
1952	茨城県生まれ
1974	グラフィックデザイナー(フリー)として活動開始
1978	筑波研究学園都市のコミュニティづくりを研究テーマとした活動
1982	株式会社ツクバ・インフォメーション・ラボ設立 代表取締役/クリエイティブディレクター
1999	茨城デザイン振興協議会会長に就任~2005年3月
2004	「パンの街つくば」プロデュース
2007	茨城プロデュースコンサルティング
2008	つくば市産業戦略推進委員会委員長
2009 ~12	つくばスタイル緑日代表世話人

